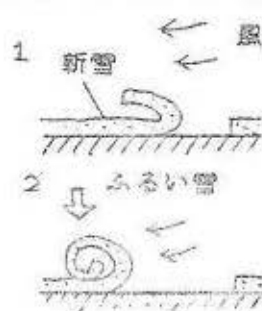
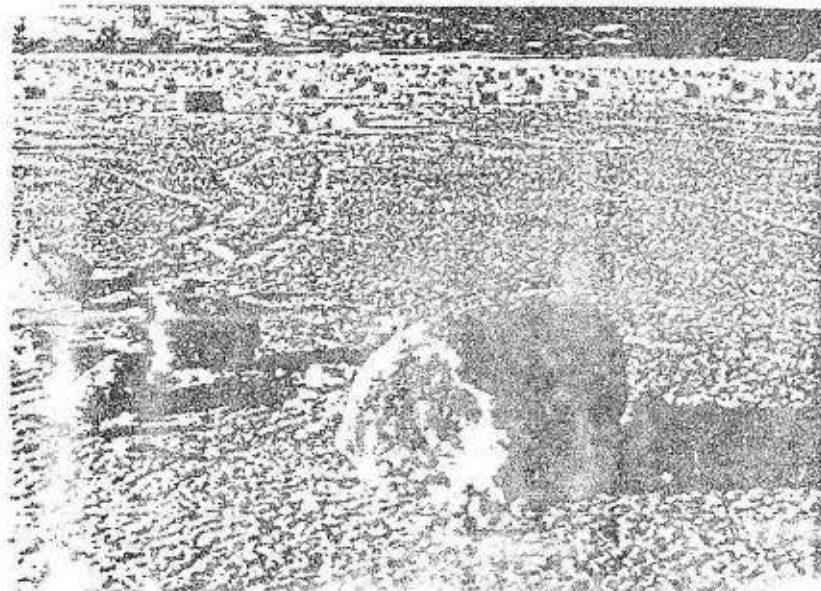


雪まくり

冬としては、それほど寒くはない風の強い日に、こんな電話が舞いこみました。それは、「田んぼに人の頭ほどの雪が転がっている。見に来てくれないか。」という内容でした。私はきっと例のものだと思って、喜んで出かけました。現場へ着いてみると、やはり私の思っていたものでした。それは「雪まくり」と呼ばれている現象で、富山では強い南風が吹く時にしばしば起きています。

「雪まくり」は、英語名では「スノー・ローラー」、日本においては、各地でさまざまな呼び名があります。例えば、山形県の庄内地方では、「俵雪（たわらゆき）」と呼んで豊作のしるしとされています。富山では、大正7年に吉沢庄作氏が気象関係の雑誌に、「天狗の雪投げ」として紹介していますが、最近では、この現象を



←「雪まくり」
1980年1月17日
富山市高島
北日本新聞社
金山氏 撮影

どのよつに呼んでいるのか聞いたことがありません。もし、ご存じの方がおられましたらお教え下さい。

さて、この現象は、以前に降った雪の表面が、いったんつけて再び凍って硬くなった後、数センチ程度の新雪が、うっすらと降り積もり、そこへ突風を伴う強い風が吹いて、降ったばかりの雪をまくりあげるところから始まります。いったん、まくりあげられた雪の少片は、風のカで転がりながら新雪をつぎつぎと巻き込んで、次第に大きくなり、ついには40~50センチになって大きな「雪まくり」ができあがるわけです。ただ、雪がうまく巻きこまれるには、雪に粘りがなければなりません。それには、雪は少し湿りけを帯びているほうが都合良く、「雪まくり」ができた時の気象を調べてみると、やはり、風に伴って気温が上昇して雪が湿りけを帯びやすくなる時に起きています。

このような条件がそろふことが珍しいので、「雪まくり」を見ることはなかなかできません。それでも、富山ではここ数年、毎年一回から二回は起きているようです。もし見つけられたら、ぜひ科学文化センターへお知らせ下さい。(ml)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和60年1月1日発行